

之」と見ゆ、而して其の警備の有様に就きては、會昌二年四月宰相等の奏言に「回鶻餘燼未滅、猶須警備」と曰〔二四三〕ひ、又同月張仲武に賜ひし詔にも「以回鶻餘燼未滅、塞上多虞、專委卿禦侮」と曰へり。〔二四〇〕

此の如く一方には唐師を出して之を窮蹙せしめ、又警備を整ふると同時に、他方には回鶻の讐敵なる黠戛斯を利用し、以夷制夷の主義により、其の討滅を計りしものなりとす、抑も黠戛斯は、嘗て太和公主を護送して唐に歸らしめんとしたるに、途に回鶻の爲に奪はれ、其の使は殺されたるより、益々回鶻に對する敵意を深くしたるならんと思はるゝが、唐は此の點を利用して、黠戛斯に對し回鶻の征討を使嗾したるものにして、茲に引きたる「詔黠戛斯、出兵攻之」といふ舊唐書の記事は、通鑑によれば實に李德裕の奏に基けるものにして、同書には、會昌三年二月、黠戛斯の使注吾合素の入朝し、封冊を求むるや

李德裕奏、宜與之結歡、令自將兵求殺使者罪人黠戛斯遣使者送太和公主、爲回鶻所殺……及討黑車子、……上從之

と記さる、此の後、即會昌三年六月にも、唐は其の征討を黠戛斯に求めたるものにして、此の月使節溫件合の入貢するや、「上賜之書、諭以速平回鶻黑車子」と記さる、而して翌四年二月に至りては

黠戛斯遣將軍諦德伊斯斯伊之誤難珠等入貢、言欲徙回鶻牙帳、請發兵之期、集會之地、上賜詔諭、以今秋可汗擊

回鶻黑車子之時、當令幽州太原振武天德四鎮、出兵要路、邀其亡逸、便申冊命、並依回鶻故事

と見え、又同月

令天德振武河東、訓卒礪兵、以俟今秋黠戛斯擊回鶻、邀其潰散之衆南來者〔二四三〕

と見ゆれば、此の時會昌四年二月には此の秋黠戛斯の軍を主とし、唐も之に策應して、回鶻征討の舉を實行せんとする